

2022年7月7日

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者：坂本 徹

1. 概 要

歩行名称	東北東ブロック（1）〔青森県海岸線歩行第1回〕
歩行区間	スタート地点：JR青森駅 ゴール地点：JR大湊線 大湊駅
実施期間	2022年4月15日（金）～4月21日（木）
全歩行距離	131km

2. メンバー表

No	役割・分担	氏 名	年齢	歩行日数	備 考
1	リーダー・企画・運転・会計	坂本 徹	65	6 日	ワングルOB24 期
2	記録	芳森 佳子	70	6 日	大阪府立大ワングルOB
3	運転・記録	笠井 浩	60	6 日	坂本徹の所属山岳会OB
4	記録	笠井 初子	63	6 日	坂本徹の所属山岳会OB
5	記録	長澤 雅人	68	6 日	坂本徹の大学2 期先輩
6	記録	味沢 俊治	66	6 日	坂本徹の大学1 期先輩
7	記録	坂本 和子	59	6 日	坂本徹の所属山岳会OB
8	協賛参加：歩行サポート・運転	成田 茂則	77	6 日	青森勤労者山岳会運営委員長
9	協賛参加：歩行サポート・運転	横垣 成年	61	3 日	青森勤労者山岳会運営委員

3. 歩行の概要

	月 日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者
1	4/15（金）	居住地から青森市に移動、午後市内観光		
2	4/16（土）	青森駅・ホテルサンルート青森 →平内町茂浦コミュニティセンター	25 km	メンバー表記載の7 人 協賛山岳会会員3 人
3	4/17（日）	平内町茂浦コミュニティセンター →平内町白鳥自然公園	26 km	メンバー表記載の7 人 協賛山岳会会員1 人
4	4/18（月）	平内町白鳥自然公園 →野辺地町はまなすふれあいセンター	26 km	メンバー表記載の7 人 協賛山岳会会員1 人
5	4/19（火）	野辺地町はまなすふれあいセンター →砂浜海岸海水浴場	18 km	メンバー表記載の7 人 協賛山岳会会員2 人
6	4/20（水）	砂浜海岸海水浴場 →大湊線金谷沢駅	24 km	メンバー表記載の7 人 協賛山岳会会員2 人
7	4/21（木）	大湊線大湊駅→大湊線金谷沢駅 歩行後に新青森駅に戻り、東北新幹線で帰路へ	12 km	メンバー表記載の7 人 協賛山岳会会員2 人

4. 参加費・費用

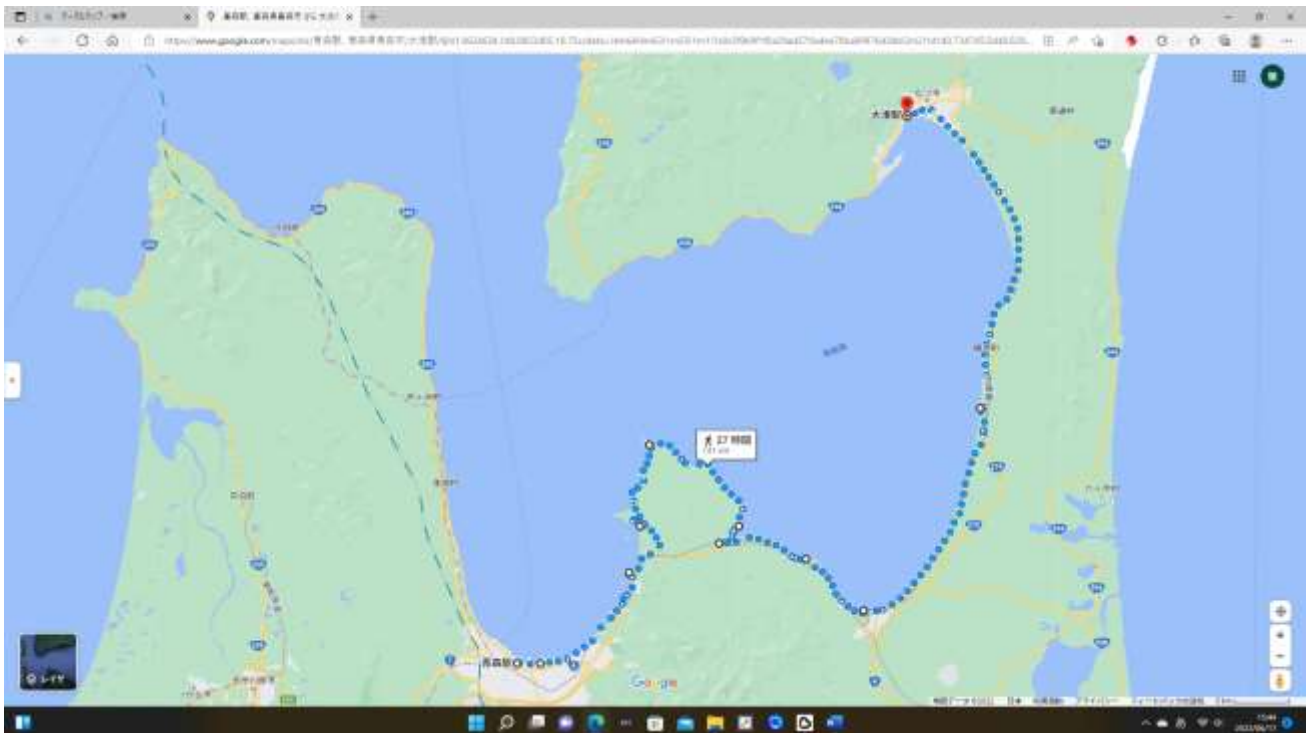
(1) 参加者延べ日数 6日*7人=42人日 歩く会会費(参加費)合計 4,200円

(2) 一人当たりの費用(居住地から青森駅までの交通費を除く)

- ① レンタカー 3,480円(車借用と保険3,500円、ガソリン代430円)
- ② 成田車・横垣車ガソリン代 2,860円
- ③ 宿泊料 1泊目(4月15日):ホテルサンルート青森(素泊り)シングル4,000円、ツイン6,900円
2泊目(4月16日):ビジネスホテルCASA HOTEL(1泊夕食付き) 6,600円
3泊目(4月17日):ビジネスホテルCASA HOTEL(1泊朝食付き) 6,160円
4泊目(4月18日):青森センターホテル(1泊2食付き) 7,135円
5泊目(4月19日):ホテルフォルクローロ大湊(1泊朝食付き) 5,640円
6泊目(4月20日):ホテルフォルクローロ大湊(1泊朝食付き) 5,640円
- ③ 飲食代 1日目(4月15日飲食店夕食代):3,600円
2日目(4月16日スーパー酒類等購入代):520円~920円
3日目(4月17日飲食店夕食代):2,890円~4,470円
5日目(4月18日ホテル夕食時飲み物代):400円~2,000円
6日目(4月19日飲食店夕食代):4,200円~5,900円
7日目(4月20日飲食店夕食代):3,100円~4,600円
飲食費お礼負担金:1,500円
- ④ 駐車場代 90円
- ⑤ 資料・通信費 1,000円
- ⑥ 報告・写真記録集 1,500円
- ① ~⑥の総計 59,765円(お酒を飲まなかった人)~67,095円程度(お酒をたくさん飲んだ人)

5. 歩き方

(1) 歩行ルート(次の地図のとおり)



(2) 歩行の効率化のためレンタカーと協賛山岳会参加者のマイカーを利用

(3) 歩行の班編成

歩行1日目は、2班編成（青森駅⇒平内町茂浦コミュニティセンター歩行の班と逆コースの班）。

歩行2日目から6日目は、ゴール地点に車1台を配車して全員で歩行。ゴール到達後にスタート地点の車1台を回収しゴール地点に戻って、2台の車に全員乗車して宿舎に移動。

6. 歩行の詳細

(1) はじめに リーダー：坂本 徹

① 青森勤労者山岳会の協賛参加について

東北東海岸ブロック第1回歩行は、青森勤労者山岳会の協賛により青森県海岸線踏破プロジェクトとして実施できました。コロナ禍のため当初予定より1年遅れての実施となりましたが、全国の海岸線12ブロックで唯一未着手であった東北東海岸ブロックの一步目を踏み出すことができました。

私は、1998年4月から2002年3月の4年間、転勤により青森市に居住しました。青森勤労者山岳会に入会し、創立時会長（1970年7月）であり、運営委員長を務められていた成田茂則さんと出会いました。春夏秋冬、魅力あふれる青森県の山を登ることができ、更に良好な活動をしている山岳会運営に関して多くのことを学ぶことができました。私は2000年から2001年の2年間、リーダー部長を務めまして、微力ながら恩返しができました。ゴールデンウィークの劔岳合宿登山、厳冬期の南八甲田山や岩木山の山スキー登山、白神山地の沢登り登山など、リーダーとして思い出に残る登山ができました。転勤により青森を離れた後も会友として周年事業などに参加してきました。また、私がリーダーを務めた長野労山の毎年海外登山実行委員会の2018年7月海外登山「中国の四姑娘スレッキングと大姑娘山登頂」に成田茂則夫妻が参加されました。

また、数多くの山行を共にした横垣成年さんは、ライフワークのひとつとしてゴミ一掃登山をしていますが、陸奥湾の砂浜をゴミ拾いしながら歩行していることを会報で知りました。



八甲田山の遠望と長い砂浜と風力発電を振り返る

お二人と一緒に海岸線歩行ができればいいなと考えて、青森県海岸線歩行プロジェクト（春と秋の年2回、6日間程度をかけて歩行し、3年間で青森県の海岸線を踏破する計画）として、成田さんに歩行参加を提案しました。組織的な検討を経て青森県勤労者山岳会として協賛参加いただきました。

② 青森県海岸線第1回歩行を実施して

青森県の桜の開花時期で好天の日が多い時期である4月後半に、第1回歩行実施を計画しました。

しかし、3月16日に発生した福島県沖地震により東北新幹線が被害を受けて一部区間で運転見合わせが続いていましたが、幸運にも青森移動前日の4月14日より全線で運転再開となりました。

更に、4月15日の青森移動日は雨天で寒い一日となりましたが、翌日4月16日から歩行最終日4月21日まで好天に恵まれました。

私は、青森在住時に海岸線の道路を車で何度も通行しましたが、歩行目線の風景は新しい発見の連続でした。陸奥湾から見る八甲田山と岩木山と釜臥山の遠望、陸奥湾の美しい海岸線地形と地層、夏泊半島の大島のカタクリ群生地と北限のツバキなど、素晴らしい光景を見ることができました。

また、横垣さんの案内で4日目（4月19日）のスタート地点の野辺地町はまなすふれあいセンターから大湊駅近くの松原町までの歩行ルートは、ほとんど砂浜を歩くことができ、真に海岸線を歩いている実感を味わうことができました。

なお、海岸線には漂流したプラスチックゴミがたくさんありました。横垣さんの音頭により4月19日と21日に、ゴール直前の砂浜でゴミ拾いを行いました。大きなビニール袋はすぐに一杯になりました。陸奥湾は美しい海岸線でしたが、ゴミが環境を破壊しているという実態に直面し、何とかしなければならぬと痛感しました。



美しい海岸線地形と地層を見ながら歩く



青森県海岸線歩行の起点青森駅にて

また、成田さんの提案と取り計らいにより、東奥日報報道部記者の取材（3日目の宿泊したホテルと4日目の歩行スタート地点にて）を受けることができて、歩行終了日4月21日の翌日の東奥日報朝刊に写真入りで記事掲載されました。

成田さんと横垣さんのサポートにより、青森県海岸線歩行が更に素晴らしいものとなりました。

（2）1日目：4月15日（金）天気：雨のち曇り 記：坂本 徹

東京から青森に移動、、到着後青森市内観光

参加者6人は東京駅9時24分発のはやぶさに乗車、味沢さんは三内丸山遺跡を見学するため早い新幹線に乗車。

青森は季節が逆戻りして寒かった。青森駅到着後、ホテルサンルート青森に荷物を預けて、14：10 市内観光に出発。

「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸」と「ねぶたの家ワ・ラッセ」を見学した。見学後に青森駅前の観光案内所で味沢さんと合流し、参加者全員が集合した。歩行起点の青森駅に行き、集合写真を撮る。青森駅の改修工事のため良い撮影ポイントがみつからず、青森駅の改札口前で撮影となった。

青森県観光物産館アスパムに行き、青森県の観光情報収集と青森県の名産品見学を行った。



メモリアルシップ八甲田丸の操縦室から望む



ねぶたの家ワ・ラッセにて

ホテルに戻って荷物を部屋に置き、夕食・交流会会場「酒菜の隠れ家 月あかり 青森駅前店」に行く。時間前に成田茂則さんも到着し、定刻どおり18時から夕食・交流会が始まった。乾杯のあと自己紹介を行ったが、直ぐに打ち解けて和やかな雰囲気となり、楽しく懇親を深めることができた。

（3）2日目：4月16日（土）天気：晴れ

記：坂本 徹

ホテルサンルート青森ロビーにて海岸線歩行出発式を行った。歩行参加者7人、青森勤労者山岳会からは成田さん夫妻、4月16日の歩行参加の対馬淑子さんと辻村眞佐子さんが参集し、11人となった。好天の中、安全に海岸線歩行ができることを願って、歩行スタートした。1班6人は青森から茂浦へ、2班4人（成田茂則さん、青森労山会員の対馬淑子さん、辻村眞佐子さん、坂本徹）は茂浦から青森へ歩行。



出発式を終えてホテルサンルート青森の前にて

① 1班 ホテルサンルート青森→平内町茂浦コミュニティセンター 記：味沢 俊治

7:45 ホテルサンルート青森出発、コンビニで食料調達後、市内善知鳥（うとう）神社8:05 到着。青森の始まりの神社。「うとう」とはウミスズメのこと。境内の池をめぐる景観から、この場所がひらかれた当初、海岸の潟湖による入り江で、港が形成されていたことが分かる。参道を東に向かって歓楽街を抜けると合浦公園に9:05 に到着。ここも、海岸地形を利用してつくられた公園。

10:38 バッコノ崎の草地を通過、11:20 川上神社と観音寺。境内の桜がほころび始める。通行止めの旧道に沿って12:00 善知鳥崎へ。赤色のすばらしい岩礁海岸に向かって、明治天皇行幸時のお休みどころがある。



善知鳥神社前にて

13:15 浅虫温泉到着、1班と合流。昼食と情報交換

のあと、温泉の足湯を楽しむ。1班は朝のうちに波打山の西海岸を歩行したが、満潮にかかるため2班は歩行を断念し、アネコ坂の山越えコースで茂浦をめざすことに。

14:45 ホタテ広場で休憩後、その案内表示を見て、自動車道を離れ、鉄道沿いの旧奥州街道を数km歩くことにする。海岸段丘上に伸びる旧奥州街道は伊能忠敬、菅江真澄も明治天皇も歩いた道、そのまま整備されており、土の道は気持ちが良い。土の道が途切れ旧自動車道と重なると、その先にラブホテルの廃墟がある。そこは夏泊半島への分岐点である。北のアネコ坂にそって棚田となっているが、ほとんど耕作されていない。水路の脇の湿原には水芭蕉が咲いている。峠を越えても耕作放棄の棚田が続く。

平内町茂浦コミュニティセンター16:38 到着。

店舗のない漁村に生協の移動販売車のアナウンス。誰も出てこない。お寿司とロールケーキを購入。ほっと一息。



湯ノ島、善知鳥崎を望む



旧奥州街道を進む

② 2班 平内町茂浦コミュニティセンター→ ホテルサンルート青森 記：坂本 徹

成田茂則さん、對馬淑子さん、辻村眞佐子さん、坂本徹の4人は、成田車で平内町茂浦コミュニティセンターへ。

8:10 コミュニティセンター着、準備体操をして8:30 出発。地元の人に聞いたところ、海岸線沿いに道はないとのことだが、国土地理院地図には、海岸線に沿って破線の道があるので海岸線に沿って進む。

集落から海岸に出て、山が迫った波打ち際を歩く。楕円形でゴロゴロした10cm程度の石に覆われた海岸

であり、歩きにくかった。

9:25 海藻がへばりついて滑りやすい岩場の難所を無事通過。干潮時であったため通過できたが、潮が満ちていたら引き返すことになったと思った。



茂浦海岸を進む



茂浦海岸の難所を越える

9:45 海岸沿いのルートが終了し、浪打集落に到着する。

10:40 養殖ホタテ生産日本一の平内町ホタテ広場に到着、売店で今夜のおつまみに乾燥ホタテを購入する。

11:40 道の駅浅虫2階くつろぎルームで昼食休憩、1班が到着して歩行ルートの情報交換を行う。

14:15 バッコノ崎の草地を通過

15:45 合浦公園、ここで坂本がレンタカーを青森駅前で借り受けるため先発する。

16:25 善知鳥神社着

16:55 レンタカーを借り受けてホテルサンルート青森着。成田さん、對馬さん、辻村さんは既に到着していた。對馬さんと辻村さんに協賛参加のお礼の挨拶をして、17:05 レンタカーでホテル発

(4) 3日目：4月17日(日) 天気：晴れ、海風は冷たい 記：笠井 浩

平内町茂浦コミュニティセンター<26 km>→平内町白鳥自然公園

6:40 カーサホテル発、途中コンビニで昼食買い出し。

7:40 成田さん坂本さんに配車をまかせて、茂浦漁港平内町茂浦コミュニティセンターを先に出発。

7:55 塩釜神社から破線の旧道へ入る。廃道だが道幅は結構広い。古く細い電柱がある。カタクリやエンレイソウが咲いている。藪や湿地に苦戦しつつも味沢リーダーのルートファインディングにより、8:50 一世代前の道路の峠に出た。8分ほどの遅れで後発組も到着。

9:02 出発、しばらく車道沿いに歩き途中から実線の道を歩く。

9:23 本線に出る。観音崎の神社に寄る。浦田の漁港にはたて養殖発祥の碑があった。以後海岸沿いの車道を歩く。稲生漁港漁民センター、施設なくトイレを借りる。

11:45 夏泊崎でほとたての串焼きを皆で食う。夏泊崎から大島へ渡る。橋が架けてある。観光客も多い。大島ではカタクリ、エゾエンゴサク、キクザキイチゲ、ニリンソウ が咲き誇っていた。望外の景色。陸奥大島灯台付近からの眺めも良好。さらにイルカが飛び跳ねているのまで見えた。ここで昼食をとる。

往路を戻り 13:17 夏泊崎出発。歩道があり俳句が詠まれた標石が続いている。



出発前にホテルにて



大島のカタクリ群生地



陸奥大島灯台の前にて

13:50 椿の自生北限という椿神社。椿も満開。地元の話では人手がなくてなかなか手入れができないらしい。午後になるとだんだん疲労が増してくる。東田沢漁港で小休止。

15:10 白砂。15:50 立石奇岩。味沢さんが般若心経を唱える。海岸に降りて下から眺めたかったが時間がない。この辺り道路沿いにもカタクリなどが咲いているが、ゴミだらけでかわいそうである。安井崎の灯台は四角形でモスクみたい。疲労感がピークに達したところでようやく雷電宮に16:50 到着。

予定時間より50分遅れ。車を取りに行ってもらっている間に雷電宮と松島を散策した。この辺り白鳥渡来地。

17:40 雷電宮発、カーサホテル18:10 着。時間がないので荷物を部屋に入れてすぐ近くの「千代」に夕食に出かけた。皆で刺身定食を食す。新鮮でうまい。

ホテルに戻り坂本リーダーの部屋で二次会。成田さんから青森の銘酒「田酒」と自家製行者ニンニク漬けをいただく。皆で山との出会いをそれぞれ披露した。明日もあるので21:30 お開きとする。



夏泊半島の北限の椿

(5) 4日目：4月18日(月) 天気：晴れのち曇り 記：笠井 初子

平内町白鳥自然公園→<26 km>→はまなすふれあいセンター (26 km)

6:50 カーサホテル発、途中コンビニで昼食買い出し。

7:35 雷電宮発。成田さん坂本さんの配車の間、小湊の往時を偲びながら町歩きをする。

8:25 浄尊寺のケヤキ、ご家中の松、高橋竹山の碑などを観る。碑をバックに記念写真を撮る。車道を歩いて海辺に向かう。

9:00 沼館尻バス停を下り、テトラポット造りを観ながら海岸に出る。

9:10 休憩。アサリ採りをしている人にアサリ収穫の大変さの話を聞く。

9:35 堀替川が流れ込む辺りで成田さん坂本さんと合流。



ホタテの貝殻捨て場に登って

雪捨て場のような巨大なホタテの貝殻捨て場があった。

10:25 水川八幡宮。トイレをあてに清水川駅に行くがトイレが無い。駅前でおじさんからコンビニまで10分と聞いて歩くがかなり歩いてもコンビニはなく、途中で駐在所があり坂本リーダーが駐在所に頼んでトイレを借りる事になる。女性3人がお借りし、男性はそこで済ませられると言ったら「軽犯罪法に触れる」との事で男性も数名お借りする。昨年赴任したと言う若いお巡りさんと、トイレをお借りせざるを得ない理由を説明している坂本リーダーとの会話がおかしくて皆笑わせて頂き、無事トイレを済ませられた事に感謝でした。今後の参考に地図記号の交番は、トイレになることを学習した。



トイレをお借りした駐在所

11:30 左エ門次郎の諏訪神社。以後再び海岸線に戻り、ふかふかの乾燥した海藻の上や石砂利の上を歩く。別荘地のようなところにベンチがあったので昼食にする。海岸だということに近くには水芭蕉が咲いていた。

12:15 出発、12:30 渡渉。男性の膝位の水深、流れも早く足下の石もゴロゴロしている。かなり冷たい川を渡る。川を渡らない坂本和子さんと笠井浩さんは、昼食地点まで戻り車道ルートへ。

13:40 野辺地馬門公民館。

14:10 野辺地戦争戦死者墓所。藩境塚があったが休まず通り過ぎる。ここで東奥日報の取材時間に間に合わせるため、成田さん坂本リーダーが先行して車を取りに行く。野辺地港隣の常夜燈公園には、立派な北前船の復元船が陸揚げしてあった。復元船はNHK 大河ドラマ篤姫の撮影にも使われ、平成24年津軽海峡を渡り北海道函館にも行ったとの記載があった。維持困難でいずれ取り壊しとの事で残念である。十符ヶ浦はよく整備されているが、行き止まりで木の階段を上り車道に上がる。ホタテ観音で休憩。以後車道をひたすら歩く。歩道はあるが草がぼうぼうと生えていて歩きにくい。



常夜燈と北前船の復元船

15:50 坂を登りきった所で海を見ながら休憩。

2班 16:30 やつとの思いではまなすふれあいセンターに到着。17:15 発。

18:15 まちなか温泉青森センターホテル到着。東奥日報の取材を成田さんと坂本リーダーが受ける。他の人は先に温泉に入らせて頂いた。その後ホテル内で夕食。

(6) 5日目：4月19日（火） 天気：晴れ 記：芳森 佳子

野辺地町有戸はまなすふれあいセンター<18km>→横浜町砂浜海岸海水浴場



ホテル発7:30

初日から参加してサポートしてくださっている成田さんに加え、本日から同じ青森労山の横垣さんが参加してくださり、総勢9人での歩行。前日に続いて東奥日報報道部記者が海岸線歩行の取材に来てくださり、出発直後の海岸線歩行で八甲田山を背景にした写真撮影がありました。

9:50 昨日の到着地点 野辺地町はまなすふれあいセンターより歩行開始。

昨日まで3日間連続ヤブ、湿地、渡渉、その他諸々有りの25km超え。番外編も含めると実移動30~36kmとハードだった

とハードだった日々に比べ、本日は今回の歩行で一番短い18km予定。

とは言え砂浜歩きは手強そう、、、との懸念は幸いにも外れ、湿って締まった砂浜は、ダウン寸前の足裏にも優しく快適そのもの。海岸にビッシリ打ち上げられた鰯の死骸の生臭さには閉口しながらも、ほど波打ち際を順調に歩行。が、雲雀平手前の川は手に負えず、

11:40 JR大湊線の線路沿いに上がり、11:55~12:30 空地でランチタイム

12:28 ラッキーにも1両編成の可愛い電車の通過にみんな童心に帰り歓声。

12:50 横浜町はまなすライン沿いにある幸田露伴と大町桂月が此の地に立ち寄った折に詠んだ文学碑見学。

13:00 再び砂浜歩行。まもなく車を回す関係上逆方向からの成田さんと横垣さんが遠くに見えたと思いきや、何やらやり始めている様子に???と近づいていくと、なんとなんと!大きな丸太を運んで川に橋を架けて下さっているではないですか!!一同只々大感激。



渡渉する人、見守る人、準備する人



文学碑の前にて

15:15 本日の目的地である横浜町砂浜海岸海水浴場着。

約20分間、各々黒のゴミ袋を持ち海岸清掃。なんて言うのもおこがましいほどゴミの量の多さに比して微々たる活動。でも実際にやってみて、改めて環境問題を強く考える動機になることを実感させられました。



ゴミ袋を持ち海岸清掃



砂浜海岸海水浴場にて

(7) 6日目: 4月20日(水) 天気: 晴れ 記: 坂本 和子

砂浜海岸海水浴場<24km>→大湊線金谷沢駅

7:30 朝食を済ませ、2台の車に分乗して昨日のゴール地点に向かう。

横垣さんの車を今日のゴール地点に移動している間、残りの人達は景色を眺めたり、昨日に引き続き初子

先生による「皿まわし」ストレッチなどをして、思い思いに過ごす。

9:30 全員合流して出発。程なく横浜漁港に到着。大きな水槽には、お花見用のトゲクリガニがキープされていた。今日も真っ青な晴天で波も穏やか、防波堤には海鳥が飛んでいる。

やや歩きにくい道を進み、途中狭い堰堤の上歩きや渡渉、休憩を交えながら北上する。

11:50 国道沿いのトラベルプラザサンシャイン敷地内にある、ホタテ観音の下でお昼休憩。

その後海岸線を進み、枯草の斜面や波消しブロックの上なども歩いて浜に下りる。



釜臥山と防波堤の海鳥



ホタテ観音の下でお昼休憩

そこから浜奥内漁港までは、何層もの茶色い地層が積み重なった垂直の断崖を右に見ながら、波打ち際を延々と歩く。やがて右側の断崖は低い丘のような林となって、左側の砂浜にはさざ波の様な波紋が広がり、時々ナミノコ貝が転がっている。果てしなく続く海と陸の境を、無我の境地で歩を進める。

途中、数回の渡渉(靴を脱いで素足で渡る人、岸から岸へ渾身のジャンプで飛び越える人、様々)を経て、15:25 浜奥内の漁港に到着。

ゴール手前の最後の川は水量が多くて渡渉が難しく、リーダー判断でヤブコギをして線路まで進むことになる。地図では短い距離に見えたが、急斜面の背の高いヤブで、足元はぬかるみ状態。バリバリとヤブをかき分ける音だけが鳴り響き、なかなかのアルバイトを強いられた末、ようやく9匹のクマは線路に辿り着いた。

そこから程なく、金谷沢駅手前の草地に停めてあった横垣さんの車を見つけ、16:38 本日のゴールとなる。車を回収する間、男組は金谷沢駅まで歩いて行って汚れた靴を洗い、後整理体操などをして車の到着を待つ。



絶景の海岸線を進む



絶景の海岸線を進む



波紋の海岸線を進む

18:00 ホテルに着き、夕食は、陽気なおかみさんが切り盛りする「番屋」という居酒屋で海の幸をたっぷりと堪能し、長い一日は終わった。

(8) 7日目 4月21日(木) 天気: 晴れ 記: 長澤 雅人

大湊駅—<12 km>→金谷沢駅

当初の予定を変更、時間節約の為、逆コースで大湊駅スタート、昨日の到着地、金谷沢駅をゴールとした。

8:30 大湊駅を出発。駅舎に掛けられていた「てっぺんの終着駅大湊駅」と記された看板が印象に残る。確かに地図帳で見れば「てっぺん」である。大湊線と並行して走る国道を進む。



てっぺんの終着駅 大湊駅にて

新田名部川を渡り、9：30 松原町の砂浜海岸に到着。陸奥湾を挟んで広がる釜臥山・大尽山・恐山の朝日に輝く景色は壮観。海岸で地元老人と出会う。青森から歩いて来た旨を伝えると「頑張って!」と笑顔で励まされる。徒歩旅の良さを実感。



新田名部川を河口に向かって進み、砂浜海岸に到着

海岸線進行方向左手に、松林が遥か遠くまで緩やかにカーブしながら続いている。右手には干潟が広がり、その向こうには陸奥湾がキラキラと輝いている。干潟には海鳥が群れている。波打ち際を一行に進む私たちが警戒して、一斉に飛び立つ海鳥の光景は圧巻。その瞬間を捉えようとカメラを構えるが、海鳥たちは既に 遥か沖合に飛び去ってしまう。波の音、海鳥の鳴き声、春ののどかな日差しが広がっている。海岸に流れ込む河口の渡渉を数回繰り返す。歩行第七日目ともなると、メンバーも渡渉に慣れ、楽しんでいる様子。



干潟に海鳥の群れ

ゴール金谷沢駅近くの海岸にてボランティアの清掃ごみ拾いを行う。短時間であつという間にビニール袋がいっぱいとなる。海岸に打ち上げられた延々と続くゴミの山に圧倒される。横垣成年さんによれば、1970年頃から海岸が汚れたしたとのこと。

地図には記されていない踏み跡を辿り、11：30 ゴール金谷沢駅に到着。駅舎は無く、一本のホームがあるだけの無人駅。駅前のこんこんと流れ出る湧水で汚れた靴を洗う。草地で腰を下ろし昼食を楽しむ。

12：10 先発隊の車が到着。金谷沢駅ホームで全員集合、写真撮影を行う。



ゴールの金谷沢駅ホームにて全員の集合写真

7. 参加者の感想

【芳森 佳子】

日本全国未訪問の県が過半数の私。とりわけ東北地方は恥ずかしながら各県の位置関係すら心もとない有様。かと言ってスポット的に観光地や山に行くのではなく、違った訪れ方をしたいと思い海岸線歩行に参加させて頂きました。

波打ち際だけでなくバライティに富んだ歩行は、これぞザ・海岸線歩行！この季節殆どどこにも人も馬も牛の気配すらなく、美しい海と残雪を頂いた崇高で神秘的な山々、ウミネコとカラスと静かな波の音だけが思い出されます。

「大湊線の四つ五つ駅はあれども人の里らしからず」大町桂月の大正時代の紀行文のまんま。故に人との出会いや生活を感じることは少なかったけれど、坂本さんのお陰で地元在住の成田さんと横垣さんのサポートを頂くのと同時に、いろんなお話を伺わせて頂きながら歩いたことはとても素晴らしく有り難かったです。



これぞザ・海岸線歩行

【笠井 浩】

海岸線歩行初参加でした。この3月に退職して時間はたっぷりある。新しい人と知り合えることだし新しい旅の楽しみ方として試してみようと思い、坂本さんからの誘いに乗ることにしました。



ゆっくり歩くといろいろな発見

普通ならピンポイントでガイドブックにある観光地を回るだけになるところ、ゆっくり歩くといろいろな発見がありました。ぶらぶら歩きが好きなので、ある程度期待していたけれど期待以上に楽しかった。山は単独行が多いので大勢の人と歩くのも楽しかった。

ただ歩くこと自体に不安はなかったのだけれど、山とはちょっと勝手が違うのか思った以上に疲れました。体調調整して次回以降も参加したいと考えていますのでよろしくお願いします。皆との再会を楽しみにしています。

【笠井 初子】

海辺の美味しい物が食べられるとの誘いに釣られて参加しました。

初めての青森で、初めての海岸線歩きでした。まず青森で目にしたフキノトウが長野の見慣れた物より巨大でビックリ（帰る前の日に収穫して帰ってから天ぷらにしました）。カタクリ、二輪草、水芭蕉の花が群生して咲いていた。大好きなお花を沢山見られました。北国の冬の寒さを耐えた後の花は、こんなにも美し

く咲くのかと感じました。浜辺も美しかった。海から見た八甲田山や岩木山は、青い海と白い山の美しさに感激しました。海岸近くに風車が續いていたり、浜辺の砂がキラキラしていたり、グランドキャニオンのような地層が見られたりと自分の足で歩かなければ見られない絶景をルンルン気分で歩きました。

美しい景色ばかりではなく、ホタテの養殖場、打ち上げられた魚や数々のゴミから環境問題や海の生活の大変さを感じさせられました。深い川も渡り、海岸線歩きにヤブコギがあるのも驚きでしたが、沢山体験させて頂き、元気に7日間無事に歩かせて頂き感謝です。



グランドキャニオンのような地層が見られた

一緒に歩いた皆様、青森のサポートの皆様ありがとうございました。緻密な計画や数々のご配慮をして下さいました坂本リーダーありがとうございました。またご一緒させて頂く機会を楽しみにしています。

【長澤 雅人】

贅沢な時間を過ごした一週間でした。自動車や電車の移動では見落としてしまうものを、「歩くこと」を通じて感じ取ることが出来ました。人々の暮らしぶり、歴史、海の匂い、波の音、大きな空等々・・・。

特に、海岸のすぐ脇を走る大湊線の、どこまでも真っ直ぐに走る線路は印象的。線路脇の草地での昼食は、何とも長閑な時間でした。幸運にも一日に数本しか通らない電車にも遭遇、線路の向こうには陸奥湾が大きく広がっていました。

残念なことに、海岸にはおびただしい量のゴミが漂着していました。日本中・世界中も同じ状況ではないのでしょうか。次の世代に美しい地球を遺すためにも、具体的な行動が必要ではないかと実感。

海岸線を歩きながら、メンバーとのたわいのない会話から学ぶことが多々ありました。青森勤労者山岳会の成田茂則さん、横垣成年さんには深く感謝いたします。綿密な計画を準備して頂いたリーダー坂本徹さん、お疲れ様でした。



波の音、大きな空等々

【味沢 俊治】

昨年の函館―江差歩行に続いて2度目の参加。歩く距離と負担は、ほとんど変わなかったものの、体験の質は大きく異なるものとなった。

前回は海岸に直接出ることが困難で国道や脇道を選びながらの歩行となった。しかし、今回は半分以上が砂浜や岩礁海岸の歩行となった。さらに、それは海岸砂丘や砂州によって形成された潟湖や干潟、湿地の間

を通り抜けるものともなった。五万分の一の地形図の地図記号から海岸線の地形に想像力をかきたてられた小学生の頃を思い出した。それは、66歳の私のなかにワクワク・ドキドキの子供のような感覚を蘇らせてくれた。そして、陸奥湾越しの八甲田山と岩木山の白い山塊、大湊線の橋梁が架かる川沿いの湿原の水芭蕉。夏泊半島の先端の大島に一齐に咲き誇る早春の花々。北国の春が駆け抜ける4月下旬の下北半島を足で歩くことでしか出会えないものだった。

一緒になって盛り上がり、ワクワク・ハラハラしながら、雪解け水の河口を渡渉し、湿地の笹原を藪こぎした、みなさまのお人柄も忘れがたい。ありがとうございました。



ワクワク・ドキドキしながら

【坂本 和子】

新幹線に乗れば、東京からたった4時間で行けるようになった青森、久しぶりの懐かしさに魅かれてこの企画に参加することにした。

関東の桜はもう葉桜なのに、早春の青森はまだ肌寒く、市街地の雪捨て場には雪の塊があちこちに残っている。時間は短縮されたけれど、当然のことながら距離まで縮まった訳ではなかった。

連日20km超を歩く旅は、参加の動機が安易だった私にはかなりハードなものだった。特に、早々にできた足の裏のマメには、最後まで苦勞させられた。



いつ果てるともなく続く真直ぐな国道歩き

心地よい柔らかな砂地歩き

では、「海岸線歩行」に対する強いこだわりもモチベーションも無く、はたまた強靱な脚力を持ち合わせているわけでもない私にとって、時につらい修行のようにさえ感じられた。

しかし、大島ではカタクリやエンゴサクなどの「スプリングエフェメラル（春の妖精）」に期せずして巡り会うことが出来、更に波間を楽しそうに遊ぶイルカの群れに遭遇するというおまけまでついて、心が安らぎもなく幸福感に包まれた。

又、後半本当の意味での「海岸線」を歩きながら、陸奥湾越しに見える残雪の八甲田や岩木山、足に心地よい柔らかな砂地歩きや渡渉時の水の冷たさ、これから出番を待つホタテの漁具や、大量に浜に打ち上げられたイワシの饅えた臭い、内海らしい穏やかな春の風や潮の香り、途切れることのない波の音、改めて下北半島の豊かな自然を体一杯五感で味わうことが出来た。

加えて人生経験豊富なメンバーとの道々でのお喋りも楽しく、良い思い出となっている。

今回は、自然の偉大さや貴さ、地域の歴史、人々の暮らしや温かさにとたくさん触れることが出来、まだまだ私の知らない青森を発見することが出来ました。

一緒に歩いてくださった皆様に感謝申し上げます。

【成田 茂則】

初の海岸線歩き、天候に恵まれ、地元の横垣さんの案内、そして坂本さんを中心にまとまったチーム、正しく「天の時、地の利、人の和」を体現できた6日間でした。

海拔2m弱から眺める岩木山、八甲田山、大倉岳や増川岳等の東郡の山々、眼前の烏帽子岳や釜臥山、初めて眼にする風景の素晴らしさに絶句、県内の山々を一望できるポイントはここしかない、海面近くの砂浜の歩き易かったこと、まるで忍者になった気分楽しく歩けました。

但し、慣れない初日や2日目の疲れが出る最後の数kmは辛く、ひたすら歩いた記憶が残っています。

また海岸線のゴミの多さにビックリ。

帰宅後直ぐに岩木山、八甲田山合宿に参加し疲労が蓄積していますが、絶景が臉に残り清々しい気持ちに浸っています。

坂本リーダー始め皆様には大変お世話になりました、ありがとうございました。



初めて眼にする風景の素晴らしさに絶句

【横垣 成年】

海岸線踏破PTが会報に載る。「コロナで無理だろう」と私。4月上旬成田さんから「坂本さん来る。いつ参加できるか」と電話。急きょ、参加モードに頭を切替え後半の参加を連絡。

19日は予定通り野辺地に集合。横浜町まで約18キロ。皆さんは既に70キロ以上歩いているというのに涼しい顔です。健脚を見せ付けられました。私は1日目で足に豆。ゴミ拾い9袋実施に感謝。20日は金谷沢まで約24キロ。石ころの多い海岸で歩きづらかったかな。でも皆さんは涼しい顔。私はつぶした豆に更に豆ができ、足の指先の方は豆と水ぶくれでブヨブヨの状態。



遠浅のきれいな砂浜を存分に

21日は約12キロ。遠浅のきれいな砂浜を存分に味わってもらえたかな。ゴミ拾い6袋実施に感謝。

「江戸時代の人はずっと1日30キロを歩いていたんだよね」「しかも草履で」と会話しながら、私はいかに長距離を歩いていないかを痛感。足の皮を厚くしなくては・・・。